

ウィーン・サロン・オーケストラ

NEW YEAR CONCERT



ニューイヤークンサート2019

音楽の都ウィーンで抜群の人気を誇る名門オーケストラ。優雅な響きが新年を彩る

写真提供: (公財) 富山市民文化事業団



予定プログラム

W.A. モーツァルト：ピアノ協奏曲 第26番 ニ長調 K. 537 「戴冠式」
[ピアノ：久元 祐子]

J. シュトラウスII：オペレッタ《こうもり》より序曲
美しく青きドナウ
皇帝円舞曲
トリッチ・トラッチ・ポルカ

J. シュランメル：ウィーンはいつもウィーン

F. レハール：オペレッタ《メリーウィドウ》より「閉ざした唇に」 ほか

※曲目・曲順が変更される場合があります。予めご了承ください。



©Dimo Dimov

Udo Zwölfer

ウド・ツヴェルファー

音楽芸術監督
コンサートマスター



©酒奇克夫

久元 祐子

ピアノソロ

YUKO HISAMOTO

1.14 月 14:00 (13:15 開場)
祝 東京オペラシティ コンサートホール

京王新線「初台駅」東口徒歩5分 京王線相互乗り入れ都営新宿線にて新宿から2分

| | | | | | | |
|----|---------|---------------|------|-------|---|------|
| 全席 | SS | 8000 (ドリンク付) | S | 7000 | A | 5000 |
| 指定 | SSペア | 15000 (ドリンク付) | SPペア | 12000 | | |
| | PAMお年玉席 | 1000 (限定30席) | | | | |

※SS席、SSペア、PAMお年玉席はプロアルテムジケのみ取り扱い。
※未就学児のご入場はご遠慮ください。

| | | | | |
|------------|------------------|--------------|--------------|----------------|
| チケット 取扱 | チケットぴあ | 0570-02-9999 | t.pia.jp | [Pコード 127-656] |
| | イープラス | | eplus.jp | |
| | ローソンチケット | 0570-084-003 | l-tike.com | [Lコード 35322] |
| | 東京オペラシティチケットセンター | | 03-5353-9999 | |

後援：オーストリア大使館 / オーストリア文化フォーラム | 日興文化協会

ウィーン・サロン・オーケストラ

ニューイヤーコンサート2019



壮麗、優美、華麗…薫り高きウィーン伝統の音楽で晴れやかな新年が幕を開けます!

ウド・ツヴェルファー (音楽芸術監督・コンサートマスター)

正調ウィンナ・ワルツ

日本でウィンナ・ワルツといえば、毎年の元旦にオーストリアの首都ウィーンの楽友協会(ムジークフェライン)大ホールから国際衛星放送で生中継されるウィーン・フィルハーモニー管弦楽団(フィルハーモニカー)の「ニューイヤーコンサート」が有名だ。

しかし、ウィーン国立歌劇場管弦楽団を母体とするフィルハーモニカーはワルツやオペレッタの名曲の演奏団体としては“新参者”に当たる。ヨハン・シュトラウス父子が活躍した19世紀の半ば、彼らが次々と書き下ろしたワルツやポルカはダンスホールや酒場の音楽であり、当時の宮廷(現・国立)歌劇場の音楽家たちが好んで奏でることはなかった。

ヨハン・シュトラウス二世(1825-1899)が1874年に初演したオペレッタの傑作《こうもり》の真価を認め、宮廷歌劇場音楽総監督のグスタフ・マーラー(1860-1911)がレパートリーに採用したのは97年。後継音楽総監督の一人、クレメンス・クラウス(1893-1954)がニューイヤーコンサートを創設したのは1939年と、20世紀の出来事だった。59年にオーストリア放送協会が国際中継を始め、レコード各社が毎年のライブ録音・録画を発売する体制が整って以来、フィルハーモニカーの売り物になった。本来はもっと小編成で歌や踊り、器楽のソロなどを「おせち料理」のようにとり混ぜ、ワイン片手の気軽な雰囲気の中で楽しむ音楽だった。ウィーン・サロン・オーケストラが奏でるのは、フィルハーモニカーとオーストリア放送協会による20世紀のマーケティングが蔓延する以前の、正調ウィンナ・ワルツである。

音楽ジャーナリスト@いけたく本舗(池田卓夫)

ウィーン生まれ。ウィーン国立音楽大学などで学び、1980年にフォルクスオーパー・ウィーン第1コンサートマスターに就任。1994年にフォルクスオーパー・ウィーン所属の演奏家で構成された「ウィーン・サロン・オーケストラ」を設立した。

1999年には、かつてヨハン・シュトラウス二世が自ら演奏し、本拠地とした歴史的施設「ウィーン・クアサロン」と契約を交わし、同オーケストラの演奏活動を本格的にスタートさせた。ツヴェルファーは、その初代音楽芸術監督およびコンサートマスターとしてオーストリア国内外にて5000公演以上のコンサートを成功させている。

久元 祐子 (ピアノ)

東京藝大を経て同大学院修了。ウィーン放送交響楽団、ラトビア国立交響楽団、読売日本交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、ベルリン弦楽四重奏団など、内外のオーケストラや合奏団と多数共演。

ウィーン・サロン・オーケストラとも東京、神戸、ウィーンにてモーツァルトのピアノ協奏曲で度々共演し、ウィーンサロン界伝統の雰囲気を醸しつつ、びたりと息のあった演奏は毎年多くの賞賛を得ている。

イタリア国際モーツァルト音楽祭にも度々招かれリサイタルを開催。その模様はイタリア全土に放映され好評を博す。ブロードウッド(1820年製)、ベーゼンドルファー(1829年製)、プレイエル(1843年製)、エラーール(1868年製)などのオリジナル楽器を所蔵。歴史的楽器を用いての演奏会や録音にも数多く取り組む。知性と感性、繊細さとダイナミズムを兼ね備えたピアニストとして高い評価を受けている。

「優雅なるモーツァルト」(レコード芸術特選盤、毎日新聞CD特薦盤)などCD13作をリリース。著書に「モーツァルトのピアノ音楽研究」(音楽之友社)他多数。国立音楽大学教授、日本で唯一のベーゼンドルファー・アーティスト。

<http://www.yuko-hisamoto.jp/>

ヘゲ・グスタヴァ・チョン (ソプラノ)
Hege Gustava Tjønn, Soprano

©Q. Driftwood



©Edinale

セバスチャン・スーレ (バリトン)
Sébastien Soulès, Baritone

ズザーナ・フィクローヴァ (バレエ)
Zuzana Fikrůva, Ballet



ウラジミール・スニツェク (バレエ)
Vladimír Snížek, Ballet

